



INFORMATION

症例検討会のご案内

北九州市立医療センターでは、地域の医療従事者の方々と一緒に医療技術向上のため、下記のとおり症例検討会を実施しています。

今年度の開催につきましては未定です。開催が決定次第お知らせいたします

症例検討会名・開催日	時間・場所
■乳腺テクニカルカンファレンス 毎月 第2・4月曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
乳腺外科・放射線科・病理診断科の医師、放射線技師、臨床検査技師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■呼吸器カンファレンス 毎週 火曜日開催	時間：17時～18時 場所：別館6階 講堂
呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■消化器カンファレンス 隔月 第3木曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
消化器内科・消化器外科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■周産期症例検討会 奇数月 第3水曜日開催	時間：19時～20時30分 場所：別館6階 講堂
産婦人科・小児科・小児外科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	

地域医療従事者研修会のご案内

日程	テーマ	講師
12月10日(木)	「がんゲノム医療について」	腫瘍内科主任部長 佐藤 栄一 がん化学療法看護認定看護師 小長光 明子
令和3年 1月28日(木)	「がん患者の疼痛管理」	緩和ケアチーム 麻酔科部長 神代 正臣 がん性疼痛看護認定看護師 太郎良 純香
2月25日(木)	「パニック障害について」 「耳の傾け方あれこれ」	心療内科主任部長 福留 克行 臨床心理士 兵頭 憲二

▶場 所：北九州市立医療センター 別館6階講堂(オンラインにて配信開始) ▶時 間：18時～(1時間程度)

*[Microsoft teams]のアプリを使用したオンライン研修のため事前の申し込みが必要です。お申し込みはFAXまたはメールでお願いします。

【問い合わせ先】北九州市立医療センター 医療連携室 TEL.093-533-8660(直通) FAX.093-533-8718 MAIL: renkei@kmmc.jp

輪



北九州市立医療センターニュース「輪」
第79号 2020年11月25日発行

<基本理念>

わたしたちは公共的使命を自覚し
心のこもった最高最良の医療を提供します

編集長：秋穂 裕唯

© 2020 北九州市立医療センター /
本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等の行為は
ご遠慮ください。

編集後記 日ごとに寒くなり、小倉都心部を彩る冬の風物詩小倉イルミネーションが始まりました。コロナ禍は続いているが、当院は引き続き各職種でチームを組みDMAT活動、口腔衛生管理、認知症ケア、早期リハビリテーション、緩和ケア、治験などに取り組んでいます。ダヴィンチ導入から1年が経過し前立腺がん、胃がん、直腸がんなど順調に症例数を増やし、適用手術の拡大も進んでいます。中止していた地域医療従事者研修会はハイブリッド形式で再開いたしました。さて、「輪」は新年号より発行部数を3,000部に増やし、患者さん向けの内容にリニューアルいたします。読みやすい紙面にしていきますので、引き続きご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。(秋穂)

〒802-8561 北九州市小倉北区馬借2丁目1番1号 北九州市立医療センター
TEL.093-541-1831(代表) FAX.093-533-8693
<https://www.kitakyu-cho.jp/center/>

広報委員会「輪」編集委員

秋穂裕唯 林 和子 重松宏尚 堀岡宏平 杉本優子 田中順子
五反康人 田中莉佳 森永七瀬 田代真紀 原 泉 高木良輔



HP: QRコード



FB: QRコード

輪



地方独立行政法人 北九州市立病院機構
北九州市立医療センター

CONTENTS

- 01 院長のごあいさつ
- 02 スポットライト／DMAT活動報告
- 03 院内紹介／口腔ケアチームについて
認知症ケアチームについて
早期リハビリテーションの実施について
- 06 専任薬剤師の配置について
- 07 トピックス／ダヴィンチ導入から1年間の報告
- 08 看護の広場／8階北病棟
- 09 登録医のご紹介
- 10 医療連携室だより

INFORMATION

- 症例検討会のご案内
- 地域医療従事者研修会のご案内



〔表紙写真について〕
医療センターでは、PCR検査の実施、徹底的な感染対策等を講じて診療を行っています。今後も引き続き対策を行います。

院長のごあいさつ



北九州市立医療センター
院長 中野 徹

北九州市立医療センターのコロナ対策

地域の皆さま、連携医療機関の皆さまには、日頃当院へのご支援、ご紹介を賜り誠にありがとうございます。

今年2月から市内新型コロナウイルス肺炎患者さんの25%を受け入れ適切に加療してまいりました。全職員はこれまで院内感染やクラスターを出すことなく通常診療が行い得ていますことに誇りを持ち職務に専念しています。

withコロナの時代にあって感染症医療と従来医療を安全に継続する、そのための医療体制を整えてまいりました。

陰圧化された発熱外来を設置し感染症疑い患者さんと一般診療患者さんの動線を完全に分け、安心して受診いただけるようにしました。

また、PCR検査、抗原検査は院内で測定可能となっており発熱者には迅速な結果確認ができるよう適切に対応しております。これまで、手術予定の患者さん、周産期のお母さんにはご同意をいただき早期よりPCR検査を行っていましたが、10月後半には全入院患者さんのPCR検査を入院前に行い全病棟で新型コロナウイルス感染リスクのない状態を確立しております。さらに、スタッフは自主的に抗体検査を受け厳しい行動規範を守っています。

患者さん、ご家族の皆さまには感染予防のため入館時の検温・手指消毒・マスク着用、面会制限、入院中の3密回避や定期的室内換気でご不便ご迷惑をお掛けいたしております。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

以上の対策をもって当院は現在まで一人の院内感染者も出さず通常診療を行っており当院が新型コロナウイルスに対し最も厳格に対応し、感染症に対して安心・安全な医療機関であることをご理解いただけたと思います。

今後とも新型コロナウイルス感染症対策を講じた診療を引き続き行っていくしますので、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



DMAT活動報告

北九州市立医療センターは令和2年7月豪雨に対してDMAT1チームを熊本に派遣しました。

熊本では人吉市に赴き、本部からの指示でまず最初に複数の医療機関の被害状況調査を行いました。そして浸水でライフライン（電気、ガス、水道）が途絶した川沿いの病院を発見、雨が続く予報でし、このままでは危険だということで本部に応援を依頼し、他院のDMAT2チームと協力して9名の患者さんを別の病院に転院搬送しました。その後160床の病院に常駐して病院支援を行いました。

この病院では水道水のくみ上げ用ポンプが浸水で故障し、2階より上の階の水道が出なくなっていました。このため2階から6階病棟まで水を人力で運ばねばならず、被災した職員にとって大きな負担となっていました。また上階ではエアコンが

作動しなくなり、熱中症が発生して増え始めている状況でした。このままでは危険だということでチームのメンバーが熱心にエアコン不調の原因を調べてくれたところ、これも水道ポンプ故障によりエアコンの冷却水が上階に届かないことが原因と判明、本部にそのことを報告し、水道ポンプ修理の調整を行ってくれました。水道ポンプはその2日後に復帰しました。他にも骨折した患者さんの搬送調整、足の不自由な患者さんの移動介助、泥に埋まったロビーの清掃など行いました。

今回メンバーの活躍のお陰でDMATとしての使命を果たす事ができ、被災地の役に立てたのは大きな喜びです。今後も災害時に社会の役に立てるように活動が続けていきますのでよろしくお願いします。

麻酔科 部長
武藤 官大
(DMATリーダー)



令和2年7月豪雨での活動



口腔ケアチームについて

当院歯科では年間約1,000名の新来患者を受け入れており、そのほとんどが、がん治療を行う患者です。

手術や抗がん剤、放射線治療(頭頸部の放射線療法)の影響で、口腔内にもさまざまな副作用(有害事象)が生じます。これら、口腔に関連する副作用・合併症の予防や軽減することを目的に、衛生管理(口腔ケア)を行う周術期口腔機能管理(がん口腔支持療法)に力を入れております。(写真1)



写真1: 診療室

●手術療法・化学療法・放射線治療におけるがん口腔支持療法

手術療法としての手術前の口腔ケアは、術後誤嚥性肺炎の予防、気管挿管時のトラブルの予防に繋がります。

化学療法や放射線治療では、副作用でお口の中にトラブルが起こることはきわめて多く、口腔ケアを行い、口の中をきれいにする事で、予防、軽減を目指します。(写真2、3)



写真2: 抗がん剤による口腔粘膜炎



写真3: 病室での口腔ケア

●各診療科との連携

抗がん剤を使った治療や頭頸部周辺への放射線治療を行う場合には、担当の診療科と連携し、治療前から積極的に予防のための歯科処置(感染源の除去)を行い、副作用の軽減に努めております。

●地域連携による継続した口腔ケア

当院の歯科だけでは口腔ケアや治療が十分に行えない場合、患者さんにはかかりつけの歯科医院での定期的な口腔ケアを勧めています。当院では、近隣の歯科医院と連携し、患者さんが入院前や退院後に歯科医院でも継続治療ができる体制作りを行っております。

北九州市立医療センター歯科では、口腔衛生管理に力を入れて取り組んでおり、口腔内のトラブルが原因でがん治療を中断することなく予定通りにがん治療を受けることができるようがん患者さんをサポートします。

●MRONJ(薬剤関連顎骨壊死)

骨粗鬆症やがんの骨転移などに使用されるビスフォスフォネート製剤とデノスマブ(ランマーク、ブラリア)やがん治療において抗がん剤と併用される血管新生抑制作用を持つ抗がん剤(アバスチン、スーテント、ラパマイシン、ネクサパール)の使用・後に、観血的処置を行うことや歯性感染病巣などで顎骨壊死が生じた状態がMRONJです。

一旦MRONJを発症すると非常に難治性です。このため、癌・骨転移患者は、可能であれば上記薬剤使用の前に必要な抜歯や歯性感染病巣の除去を行い、薬剤を開始することが理想と思われます。

処方医と連携し、投与前から積極的にMRONJ予防のための歯科処置(抜歯や感染源の除去)を行い、副作用の軽減に努めております。(写真4)



写真4: MRONJ

認知症ケアチームについて



病棟でのラウンド風景

北九州市の高齢化率は30.7%と他の政令指定都市と比べて高く、認知症高齢者数は加速の一途を辿り、身体疾患のため入院を必要とする認知症高齢患者も増加しています。当院では2020年5月から認知症ケアチームを立ち上げ、医師・社会福祉士・薬剤師・リハビリ・管理栄養士・認知症看護認定看護師・各病棟の看護師を含む認知症ケア委員と多職種で連携を図り、認知症高齢患者さんとそのご家族の支援を開始しました。

当院に入院される認知症高齢患者さんは手術や抗がん剤など身体侵襲の影響が大きく、せん妄の発症や認知症の行動・心理症状の悪化を招きやすくなります。チームメンバーはカンファレンスやラウンドで、苦痛を伴う身体症状の緩和や夜間の睡眠確保のための薬剤や環境調整、認知機能に合わせたコミュニケーション方法等について多角的にサポートを行い、せん妄や認知症の行動・心理症状の悪化予防や早期対応を行っています。

例えば、疼痛コントロールが不足し混乱している認知症高齢患者さんの除痛を積極的に行い、夜間の睡眠を確保することで混乱は落ち着き、リハビリへの参加もスムーズに行えADLの低下を予防することができました。またスタッフはメンバーと一緒に混乱をきたしている要因を探りケアを提

供し、認知症高齢患者さんが落ち着きその人らしく過ごされることで認知症ケアへの自信に繋がるきっかけとなりました。

認知症ケアチームは認知症高齢患者さんが慣れない環境の中でも安全で安心して身体疾患の治療を円滑に受け、その人らしく療養生活を送ることができ、住み慣れた地域に戻ることを目指しています。スタッフと一丸となって頑張っていますのでよろしくお願いいたします。



カンファレンス中風景



各職種のPR

●医師

医師の役割は、認知症の診察を行い、身体の変調や薬剤の影響を探ることです。その結果を踏まえて、必要に応じて主治医と相談の上、自ら薬剤を処方することもあります。

●社会福祉士

当院の医療ソーシャルワーカーは患者さん・ご家族が抱える心理・社会的問題(医療・介護・経済・不安)に対し院内院外問わず地域医療機関や各関係機関(職種)と連携を図り支援を行っています。

●薬剤師

主に精神症状にかかわる薬剤の調整提案やせん妄出現リスクのある薬剤の確認を行っています。患者さん、医療者双方が安心して治療に取り組めるよう尽力いたします。よろしくお願いいたします。

●リハビリ

リハビリテーション課ではPT、OT、STの3職で身体機能、ADL能力、摂食機能等の訓練を早期より実施し、訓練を通じて患者の認知レベルを評価し対応に当たっています。

●管理栄養士

栄養部は患者さんの栄養状態の把握と、食や栄養に関わる諸問題について対応しています。まだまだ力不足ですが、チームの一員として認知症の患者さんに寄り添っていききたいと思います。

●看護師

認知症高齢患者さんが適切な言葉や行動に表せない思いに寄り添い、できる能力を見極め、可能な限り心地よく安全に安心して療養生活を送ることができるように、環境調整と精神面のサポートを行っています。

早期リハビリテーションの実施について

『早期離床』とは『早期リハビリテーション(欧米ではearly mobilization,early mobilization and exerciseとされ発症や手術後早期から実施される運動やリハビリテーション)』の一手段とされています。一般的に不動による筋の変性や筋量の減少が、疾患の新規発症、手術または急性増悪から48時間以内に始まり、2〜3週間のうちに最大となると言われています。従って『早期』とは発症や手術後から48時間以内に開始することを指しています。また、ここでの『離床』とは一般的には文字通り『床から離れる(leave the bed,out of bed)』とされていますが、『歩行』のみを指すのではなく、『head up座位』、『端座位』、『立位』、『立位足踏み』(重力負荷)も含まれ、これらの動作を段階的に行われる運動プログラムを指します。急性期医療の早期離床現場では、患者さんの全身状態が不安定であることをはじめ、医療機器やルート類等の環境因子としてのリスクも存在するため、多くは看護師やリハビリスタッフとともに実施していくことになります。

重要なポイントは早期離床を単なる離床で終わらせるのではなく、如何に獲得した動作を日常生活動作(ADL)に反映させ、患者さんの早期自立を促進させることです。



ICUで早期離床の実際



病棟での離床



病棟看護師とリハビリテーション技術課との共同離床援助



6階南病棟スタッフ

■早期離床の効果について (Evidenceがあるものから十分なEvidenceはないが効果が期待できるものまで含まれる)

	効果
運動機能	・ 臥床、不活動、ICU-AWIによる筋力低下予防 ・ 異化抑制と同化作用の惹起 ・ 運動耐容能低下予防
循環機能	・ 起立性低血圧予防(起立耐性*低下予防) ・ DVT予防 ・ 炎症による末梢循環障害予防 ・ 最大酸素摂取量低下予防
呼吸機能	・ 一回換気量増大 ・ 下側肺障害予防 ・ 無気肺予防/改善 ・ 気道内分泌物ドレナージ効果 ・ 肺うっ血予防
消化器機能	・ 腸管の蠕動運動促進
精神機能	・ 不穏/せん妄予防 ・ 鎮静剤投与量および期間減少

※：重力に抗して血圧や能還流圧を維持する心血管系の能力

■早期離床(早期リハビリテーション)のEvidence

	Evidence
外科周術期人工呼吸器	・ 歩行能力を改善する可能性がある ・ ADL再獲得に効果がある可能性がある ・ 呼吸器合併症の予防に推奨される ・ 人工呼吸器離脱を促進する可能性がある ・ せん妄の発症や期間を減少させるために推奨される ・ ICU在室期間や在院日数を短縮する可能性がある
整形外科	・ DVTを予防するうえで非常に重要である ・ 筋力低下が少なくなり患者の回復を促進する可能性がある ・ 在院日数を短縮する可能性がある
脳出血疾患	・ 歩行能力の改善に強く勧められる ・ 不動、廃用症候群予防の予防に強く勧められる ・ 脳卒中発症3か月後の機能障害やADL障害を改善させる

●早期離床を実践するにあたって

ICUにおける早期離床(早期リハビリテーション)を起因とする有害事象の発生頻度は、人工呼吸中や血液浄化治療中においても0〜3%以下であり、新たな治療を要する合併症は稀であり、有害事象発生頻度は非常に低かったと報告されています。しかし、早期離床は、身体への重力負荷、筋活動量増加による体内酸素消費量増加(呼吸/循環への影響)が生じ、安静臥床時と比較し身体への負荷が加わります。適度な負荷であれば上記のような効果が望めますが、急性期での過負荷には十分に気を付けなければなりません。

常に早期離床は得られる効果のbenefitとriskを天秤にかけ、十分なrisk管理を行いながら安全に段階的に早期離床を行っていく必要があります。また、早期離床で得られた効果をADL動作に繋げ、早期のADL自立、早期退院へと繋げていくことが重要です。



6階南病棟
看護師長
川野 孝司

●整形外科病棟の早期離床について

6階南病棟は整形外科病棟であり、手術を受けられる患者さんが多く入院しています。術後の早期離床を図る看護援助は標準的な術後管理として実施されています。術後の患者さんは手術侵襲による体力の消耗や気力の減退、体動による創部痛の増大からの不安や恐怖がある時期です。術後早期離床援助は、看護師がその場の患者さんの反応や状態を診ながら離床の促進を行っています。腰部脊柱管狭窄症に対する手術、腰椎椎間板ヘルニア手術を受けた患者さんに対しては手術後3時間以内で離床援助を行います。また肩関節手術、人工膝関節・股関節置換術、骨折に対する下肢手術を行った患者さんは手術翌日からの離床援助を行っています。

整形外科病棟看護師の役割はADL(日常生活動作)の向上・拡大を図ることです。患者さんのADLがもとの自立レベルまで向上することができるために医師、理学療法士、作業療法士、看護師、看護補助者が協働し早期離床援助を行っております。

専任薬剤師の配置について

2020年4月から医療安全管理室に、2020年6月から患者支援センター、緩和ケアセンターに専任薬剤師を各1名ずつ配置しました。

医療安全では、患者の皆さんが安心して安全な薬物療法を受けていただくために、医師、看護師、その他の医療スタッフと協力して、当院における医薬品の適正使用に関する問題に取り組んでいます。

患者支援センターでは、入院が決まった患者さんやご家族の方を対象に、現在処方されている薬や健康補助食品の利用状況などをお伺いし、手術前の薬の中止や変更等について説明しています。



▲専任薬剤師の皆さん

緩和ケアセンターでは、緩和ケアチームの一員として回診やカンファレンスに参加し、多職種で協力することで、入院外来を問わず治療の早期から患者さんの身体的・精神的苦痛の軽減に取り組んでいます。

患者さんの安全を確保しつつ必要な医療を提供するために、各分野で薬剤師としての職能を活かしていけるよう努めていきたいと思っています。



▲患者支援センター



▲医療安全管理室



▲緩和ケアチーム

新任医師紹介

Profile / Sonofu Taketani



緩和ケア内科 竹谷 園生

この10月から当院の緩和ケア内科に着任いたしました。出身大学は札幌医科大学で、長い間消化器外科を専門としておりました。その間も、緩和医療は興味のある分野でありましたが、この度、外科医としての素質に見切りがつき、将来のことを考え、キャリアチェンジを決心いたしました。大場先生のもとで、一から緩和ケアの勉強させていただきます。

なにぶん、新しい分野への挑戦ですので、皆さんにはご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、よろしくお願い申し上げます。



ダヴィンチ導入から 1年間の報告

TOPICS トピックス

2012年、前立腺がんのロボット支援下手術が国内で保険適用となって以来、ダヴィンチによる手術は全国的に増加し続けています。さらに2018年4月には保険適用部位の対象が拡大し、胃がんや直腸がんなどでも、ロボット支援下手術の保険適用が可能となりました。

当院では2019年9月に最新鋭機種「ダヴィンチXi」を導入し、地域がん診療連携拠点病院（高度型）として最先端の手術を行う体制を整えました。

特殊な技術が必要とするダヴィンチ手術は、指定のライセンスを持つ医師しか執刀できず、さらに保険診療で手術を行うには一定の症例実績が求められます。そのため、医師のライセンス取得や、看護師、臨床工学技士のトレーニング等約2ヶ月の準備期間を経て、11月に初症例を行いました。

初症例から一年経過し、前立腺がん、胃がん、直腸がんに加えて、今年度からは、腎がん、腎盂尿管移行部狭窄症、食道がんでもダヴィンチ手術を行い、適用手術の拡大は順調に進んでいます。

ロボット支援下手術は発展途上であり、今後は「さらなる保険適用部位の拡大」や「ロボット支援下でない内視鏡手術との差別化」などが予測されます。それらに対応していくためにも、優秀な医師を新しい術者として育成する院内の教育システムの確立を進めていく予定です。



■ 症例実績 (2019/11/1~2020/10/31)

診療科	対象疾患	症例数
泌尿器科	前立腺がん	29
	腎がん	17
	腎盂尿管移行部狭窄症	3
外科	胃がん	23
	直腸がん	25
	食道がん	1



看護の広場

8階北病棟

児と家族に寄り添った医療を目指して



8階北病棟 看護師長 井生 恭子

8階北病棟は総合周産期母子医療センターに属し、新生児内科・新生児外科部門を有しています。新生児集中治療管理室（NICU）9床、新生児治療回復室（GCU）18床で運営され、ハイリスク新生児の入院を24時間、365日受け入れています。スタッフは新生児科医3名、小児外科医2名、看護師46名で、児と家族に細かく寄り添った医療を目指し、時にはパパとなりママとなり、小さな体の大切な命を守っています。

毎週木曜日は症例検討会で、医師や看護師、理学療法士などで情報共有や情報交換を行い、また助産師とは各勤務ごとに入院母体の情報交換を行い、急な出生に備えた準備をしています。さらに当病棟には新生児集中ケア認定看護師が1名在籍しており看護師への教育の他、出生前のご家族への産前訪問なども行っています。

入院症例は1,000g未満の超低出生体重児から、1,500g未満の極低出生体重児、その他双胎などの多胎児や奇形症候群、染色体異常、新生児外科疾患、脳外科疾患などで、近年「後遺症なき生存」が言われている当科ですが、在宅時に医療ケアを有する児も多く、在宅酸素や人工肛門、経管栄養についての両親への指導も行っています。



処置中の様子

また小児科病棟とも連携し、退院前には小児科病棟で母子入院をしていただき、指導後の再確認と実生活へのイメージをつけていただく取り組みも行っています。これらの疾患の他、様々な問題を抱えたご家族も多く、社会福祉士など多職種で連携し細かな情報共有と退院支援に取り組んでいます。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため一旦はご家族の入室面会を中止しましたが、愛着形成における親子の触れ合いの重要性を鑑み、家族面会について何度も見直しを行いました。現在はNICU・GCU共に一定条件の下入室面会を行っております。また、新型コロナウイルス罹患および疑い妊婦から出生した児の受け入れができるよう、陰圧室の準備、マニュアル作成を行い受け入れを開始しました。

これからも多種多様な症例に対応できるよう、また1日でも早く児とご家族がともに生活できるよう、スタッフ一同努力してまいりたいと思います。

INSTRUCTOR YOUTH STAFF

8北病棟には、新生児蘇生法インストラクターコース（Iコース）を取得したスタッフが5名在籍しております！

今年度取得しました！



神 摩弓

● スタッフ紹介

・矢野 由美 ・廣田 恭子
・投野 美香 ・井上 徳子



8階北病棟スタッフ一同

Registered physician Information



登録医のご紹介

Clinic
1

医療法人 白石胃腸科内科医院

INFORMATION

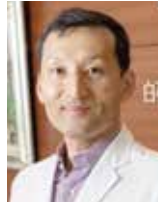
所在地：小倉北区木町3-10-16

T E L : 093-581-0392

F A X : 093-592-2555

院 長：白石 慶

診療科目：内科、消化器内科



院長・理事長
白石 慶



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	×
14:00~18:00	○	○	○	×	○	○	×



内視鏡室

アピールポイント

医院の名前の通り、消化器の診療を中心に一般内科診療を行っています。

上下部消化管内視鏡検査を希望される方も多く、患者さんに安心・安全な内視鏡検査を行うことに特に力を入れています。地域の皆様が何でも相談できるクリニックを目指し、スタッフ一同頑張っています。

市立医療センターへの一言

いつも病診連携に際し、迅速な対応、丁寧な情報提供書に感謝しております。

当院からは消化器がん症例を消化器内科や外科へご紹介させていただくことが多いですが、全診療科において質の高い医療の提供はもちろんのこと、最近では発熱外来や感染症患者の受け入れ・対応など最前線で携わって下さり、感謝とともに最大の敬意を表します。

Clinic
2

医療法人真柳会 小柳整形外科クリニック

INFORMATION

所在地：福岡県行橋市大橋3丁目1-28 院 長：小柳 俊二

T E L : 0930-26-1010

F A X : 0930-22-1610

診療科目：整形外科、リウマチ科

リハビリテーション科



院長
小柳 俊二



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	×	○	○	×
14:00~17:30	○	○	○	×	○	○	×

※午前の受付は11:30まで(ただし新患は11:00まで)
午後の受付は17:30まで ※土曜日の受付時間は16:00まで



アピールポイント

福岡県東部に位置します行橋市で平成17年に開業いたしました無床のクリニックです。整形外科専門医、リウマチ医、運動器リハビリテーション医、また日本スポーツ協会公認スポーツドクターとして地域の高齢者から子どもまでの整形外科分野を幅広く診療しています。

市立医療センターへの一言

当院から肩関節疾患、脊椎疾患をはじめとした手術のお願い、また医療センターからは術後療法の患者さんをご紹介いただき大変お世話になっております。

この度、医療連携ネットにおいて連携を図ることが可能となりまして、より緊密な地域連携をお願いしたいと思います。

医療連携室だより

医療連携を基本に業務内容の充実を図り、地域医療機関、患者さん、職員からも安心して頼りにされるよう取り組んでまいります。

平素より、当院の地域医療連携にご理解とご協力をいただき心から感謝いたします。

新型コロナウイルス感染防止のため令和2年2月より中止しておりました「地域医療従事者研修会」を9月24日オンラインで再開しました。地域より多くの先生方や看護師、コメディカルの皆さまにご参加いただき、無事に開催することができました。お礼申し上げます。

総合診療内科主任部長内田勇二郎より「COVID-19感染症の現状」というテーマで、当院で対応した患者さんの経過などを通して学んだことを講演させていただきました。

また、感染管理認定看護師田中裕之より「当院での対応」として、院内スタッフの感染防止に対する取り組みをご紹介させていただきました。新型コロナウイルス感染症に対する疑問やご意見などあればお気軽にお問合せください。

今後も地域の医療機関の皆さまのご期待に応えるべくより一層の努力をしてまいりますのでご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



地域医療連携推進担当係長 田代 真紀

こんにちは、北九州市立医療センター連携室前方担当です。
私たち5名で皆様方のお電話、FAXなどを受けております。
今後ともよろしくお願いいたします。

上段：小島 唯 森元 由加利 高石 理佐江
下段：田代 真紀 永留 愛子

【医療連携室】

TEL 093-533-8660(直通) FAX 093-533-8718 E-mail : byou-iryuu-renkei@kitakyu-cho.jp ※患者さんのご紹介は、E-mailでは受付けておりません。

RINKEN FOCUS | 臨床研究通信

画期的な新規医療と最適医療の確立に向けて

北九州市立病院機構は基本理念の一つに、「最高の医療を提供」することを挙げています。その目的を果たすためには、現在の最高の医療に加えて、それを越える新しい医療の開発を進める必要があります。そこで、2020年4月に臨床研究推進室を設置し、治験と臨床研究の支援を開始しました。6月には機構のそれぞれの病院にあった倫理審査委員会をひとつに統合しより適切な審査体制を構築しました。

最近の薬剤の開発はさくめて活発で、がんに対する免疫チェックポイント阻害薬や、ウィルス肝炎に対する治療薬など、画期的な薬が次々に登場しています。治験は従来の治療法では効果が不十分な疾患に対して、いち早く薬を届けることが可能です。日々、先生方が診察されている患者さんの中で、治験や臨床研究に参加することで治療の選択肢が広がる可能性がある患者さん、現在の治療に難渋している患者さんがいらっしゃるようでしたら、右記へ問い合わせいただければ幸いです。

現在、両病院で実施中または実施した治験・臨床研究は表1のとおりです。地域の医療機関・患者さんとともに、医療の質の向上に努めていきたいと思っています。皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。

表1：現在実施中または実施した治験・臨床研究

領域	対象疾患名
呼吸器系	喘息、COPD
循環器系	心不全
消化器系	潰瘍性大腸炎、クローン病、消化器症状に伴う鉄欠乏性貧血
膠原病系	乾癬性関節炎、関節リウマチ
整形外科系	脊柱管狭窄症
感染症系	新型コロナウイルス感染症
小児疾患	異溶性白質ジストロフィー

●連絡先

北九州市立医療センター
臨床研究推進室 担当：稲田 TEL.093-541-1831(代表)